

有物払下げは取り下げとなり、新たに明治二十三年を期し、国会を開設するという大詔が渙発せられたが、大隈

輩下の矢野達も大挙して政府から身を退くことになり、時局は新たな局面を迎えることになる。

愚考古考学

中 林 幸 夫

(会員・佐伯市長島町)

鳥居 → 居 → 鋸

最近、農地改良工事のために各地で遺跡が発見された新聞記事が多い。

そして、集落群、○○宮跡等とことまかに古代の様子が大々的に書かれている。

私は以前からこのような記事を読むたびに不思議に思うことがあるので、こゝに愚考を述べてみたい。

それは、鉄器時代以前の石器時代(古墳時代)のことである。

先日、竪穴住居跡の柱の太さが直径二十五センチあったと発表されていたが、石器時代にいかにして太い木材を思いの長さに加工したかの方法である。石斧・石刀石包丁等は発見されているが石鋸はあまり耳にしない。

現代人の我々の考えが古代人に及ばないかもしれない

が、太い木材を鋸なくして自由に加工できるだろうか。

外国の古代遺跡は、粘土でレンガを作り、それを重ねて建造物を作るということは、ごく自然的な考えに思えるが、日本の木造建築及び石造による古墳等はどうか考えても自然的発想に疑いがある。それは「鋸」の役目をするものがないと納得いかないからである。

石器時代よく古墳を作る図で大きな石を運ぶ場合、石の下に丸太を敷きコロにし、又テコを使用して石を運搬しているが、コロやテコにする木材はかなりの太さが必要である。この木材を切り出すには鋸が無くして可能だろうか。

書物によれば、外国では古く銅製の鋸が発明されていたという説があるが、日本にもそのようなものがあったのだろうか。もし、銅製のものがあつたとしたら、どこからか発見されるはずである。

私は、鳥居こそ我が国最初の建築物ではなからうかと考えている。

鳥居は鋸が無ければ作れないような気がする。

鳥居は、現在神社の門を示しているが、以前は鳥居こそ、我が国の祖先が地上に建てた最初の建築物ではな

らうか。鳥居は現在の木造建築の基礎原形のようにも思える。

佐伯にも白瀉遺跡が再現されているが、発掘された土器については何の疑問もないが、茅ぶきの家は、当時のものとかかなり差異があるように思える。

石刀等では、稲の穂を刈るのが精いっぱい、茅や稲藁をもとから刈ることは大変なことである。

私があえて愚考を述べたのは、学者の勝手な意見がまかり通り、一般人の疑問を嘲笑する傾向があるからである。

古代人が丸木舟で航海したことは想像できるが、鉄器時代以後でなければ、丸木舟になるような大木が切り出せただろうか。

人間の歴史上では、鉄器時代は新しい時代である。鉄器時代以前のこととは疑問だらけである。

誰か疑問に答えて戴ければ幸いである。